

7～8月出荷シンテッポウユリにおける品種比較

[要約]

7月出荷シンテッポウユリでは「さきがけ雷山」より若干開花が遅れるが、「F1ホワイトランサー」も利用可能である。また、「かつき」、「はつき」、「F1オーガスタ」も組み合わせて栽培すると、労力を分散させながら8月まで連続して出荷が可能である。

農業総合センター園芸研究所

1. 背景・ねらい

近年の切花価格低迷により、生産者は低コスト生産を余儀なくされており、種苗費の高い球根切花ではいかに種苗費を押さえるかが大きな問題となっている。これを受けて、種苗費の安い種子を用いて、は種から1年以内で採花できるシンテッポウユリが注目されている。そこで、高品質で適期出荷が可能な品種を選定するために、最近の品種について検討した。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 種子を12月25日にプラグトレイに播種。液肥で適宜追肥しながらパイプハウス内で育苗した。苗を5月2日に露地圃場に15×15cmの6条植えで定植した。元肥量はチッ素成分で1kg/aとした。
- 2) 「白龍」、「白馬」、「F1スノーライン」は小花の向きが横向きであり(図1参照)、主流の上向きでないために市場性が小さい。
- 3) 7月出荷作型では、「F1ホワイトランサー」が主流品種「さきがけ雷山」より開花が若干遅れるものの、ボリュームに優り市場性が高い。
- 4) 8月出荷作型では、主流品種「F1オーガスタ」より切花品質が明らかに優れ、小花が上向きに咲く品種は見いだせなかった。
- 5) 「かつき」、「はつき」は「F1ホワイトランサー」より開花が若干遅れ、7月出荷作型に利用するのは難しいが、高品質の切花が生産できる。
- 6) 7月出荷作型には「F1ホワイトランサー」も利用可能と考えられた。また、労力分散のためには「かつき」、「はつき」等を組み合わせるとよい。8月出荷では「F1オーガスタ」に優る品種はない。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 連作をさける。
- 2) 切下球を利用したハウス促成栽培も可能である。
- 3) 1球から時期がずれながら複数本の収穫が可能である。
- 4) 元肥量が若干少なく生育旺盛でないため、現地では本データより開花が遅れる可能性がある。

4. 具体的データ

表1 供試品種の生育・開花特性

品種	平均開花日 ±標準誤差	開花始期	開花始期	切花重 (g)	切花長 (cm)	咲き方
さきがけ雷山	7/12± 1.0	7/ 11	7/ 13	19.7	44.0	上向き
F1 ホワイトランサー	7/16± 4.4	7/ 10	7/ 22	34.6	58.6	上向き
はつき	7/21± 4.5	7/ 15	7/ 26	34.2	61.0	上向き
かつき	7/24±10.7	7/ 13	8/ 8	48.7	67.3	上向き
雷山1号	7/26±12.0	7/ 15	8/ 9	34.7	52.3	上向き
F1 スノーライン	7/26±10.2	7/ 13	8/ 15	46.0	56.1	横向き
F1 オーガスタ	7/28± 3.0	7/ 25	8/ 5	57.7	62.7	上向き
雷山2号	8/10±13.3	7/ 26	8/ 28	48.8	50.5	上向き
白龍	8/14± 8.5	8/ 4	8/ 29	70.5	77.2	横向き
白馬	8/16± 7.0	8/ 6	8/ 28	71.0	68.3	横向き

注：7月出荷作型の対照品種；「さきがけ雷山」

8月出荷作型の対照品種；「F1 オーガスタ」



上向き（受け咲き）



横向き

図1 小花の咲き方

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

シンテツポウユリの優良品種の選定・平成12～13年度・花き研究室